



TOKYO DOME

GROUP REPORT

東京ドームグループレポート



TOKYO DOME

「感動」を共有し、 持続的に企業価値を 創出する100年企業へ

当社グループは、いつの時代にもほかに先駆けて
さまざまなレジャー施設とサービスを多くの人々に提供してきました。
今後もレジャー事業の拡大を見据え、お客様に心から楽しんでいただける
安全・安心な都市型レジャーを追い求め続けることを社会的な使命ととらえ、
レジャー・サービス業の100年企業として変わることのない「感動共有」と、
次世代の新たな価値を持続的に創出していきます。

経営理念

企業目的

私たちは人とひととのふれあいを通して
お客様と「感動」を共有し
豊かな社会の実現に貢献します

経営方針

∞ 新しい価値を創造する活力と豊かな対話を求め ∞

- 日々新たな気持ちで仕事に取り組み、前進しよう
- 明日のさらなる発展のために、今日の目標を達成しよう
- お客様の声に耳を傾け、誠意をもってお応えしよう

安全理念

東京ドームグループは、お客様と「感動」を共有するために、
安全を第一に考え、行動します

安全基本方針

- 安全で楽しい施設とサービスの提供を追求し続けます
- 安全について私たち自身で基準を設定し遵守します
- 安全のための教育訓練に積極的に取り組みます

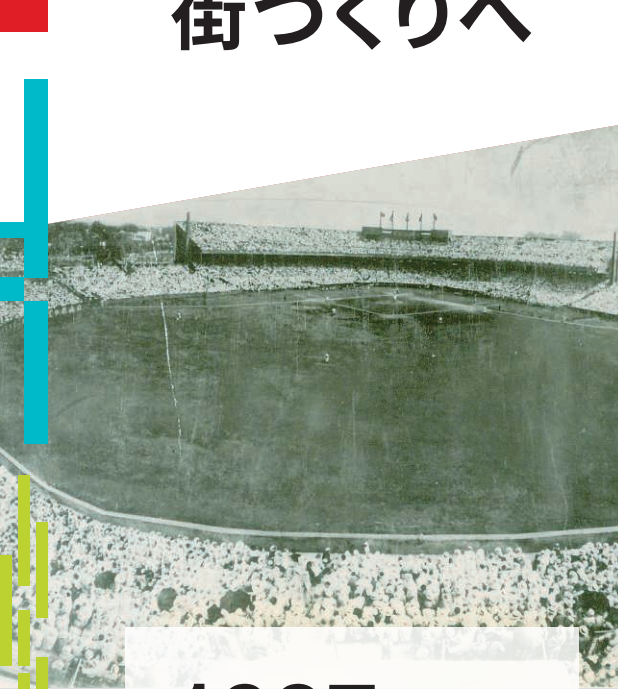
CONTENTS

02 東京ドームシティ大規模リニューアル	24 新たな感動体験創出のための取り組み
06 東京ドームグループの施設紹介	25 東京ドームグループのサステナビリティ
07 東京ドームシティ事業	35 東京ドームグループの歴史
20 熱海事業	36 会社概要
21 流通事業・その他の事業	37 トップメッセージ
22 東京ドームグループのトータルソリューション	

発行にあたり 「東京ドームグループレポート」では、東京ドームグループの事業内容や持続的な企業価値創出に向けた取り組みなど、東京ドームグループの魅力を集約し掲載しています。あらゆるステークホルダーの皆様が、本レポートを通じて、当社グループへのご理解を深めていただければ幸いです。

発行年月 2024年4月

東京ドームシティは新しく生まれ変わります！ 「心が動く、心に残る。」 街づくりへ



1937

後楽園スタジアム
(野球場) 開場

東京の真ん中に「後楽園球場」が誕生。当時はもちろんのことまだ屋根のない球場で、プロ野球全8球団の公式戦が開催されていました。



1988

日本初の全天候型多目的スタジアム
「東京ドーム」が誕生

日本初の全天候型多目的スタジアム「東京ドーム」が誕生。雨天の心配がなくなったため、スポーツはもちろんのこと、さまざまなビッグイベントやコンサート会場としての利用が増えました。



2023-2024

心が動く、心に残る。

ここだけの特別な1日を。

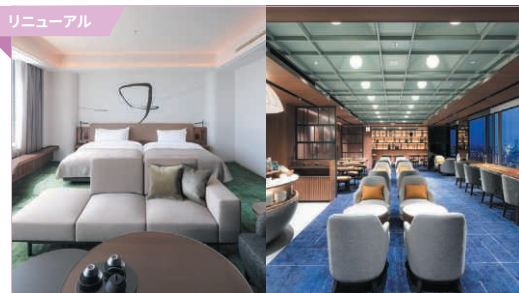
だれでも、いつでも、いつまでも
なにげない日が特別に、特別な日をもっと特別になる
ここにしかないエンターテインメントシティへ。
2024年夏に向けて新しく生まれ変わります。

東京ドームシティ 大規模リニューアルを実施！

LaQua開業20周年にあわせた過去最大規模のリニューアル、吉本興業グループとの協業による新劇場「IMM THEATER」や、日本サッカー協会と提携したJFA サッカー文化創造拠点「blue-ing!」の開業など、2024年夏までを目処とする連続性のある開発を順次実施していきます。



リニューアル
2023年シーズンより東京ドーム内のさらなる座席改修を実施 P07-08



リニューアル
東京ドームホテルに新コンセプトフロアが誕生 P17



リニューアル
LaQua開業20周年！過去最大規模のリニューアル P14-15



NEW
東京ドームシティに『JFA サッカー文化創造拠点「blue-ing!」』誕生 P18

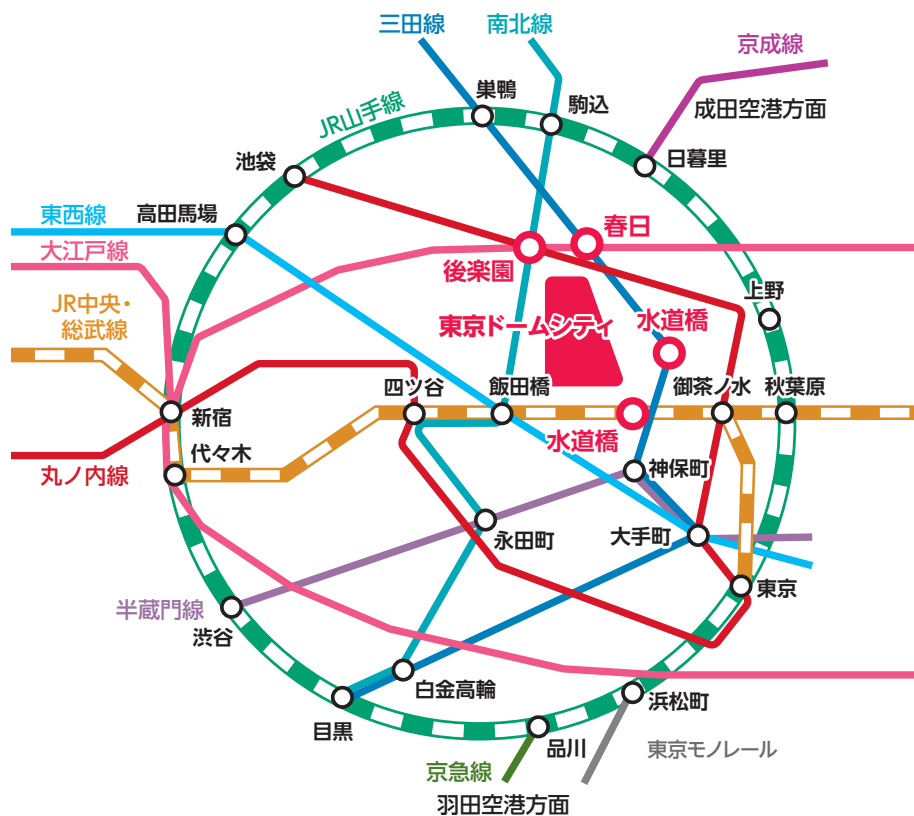


NEW
吉本興業グループによる新劇場「IMM THEATER」開業 P19

アクセスも良好！

憩い賑わう空間創出のためのランドスケープの刷新

訪れるお客様の非日常感の醸成や期待感の高揚、滞在快適性と回遊性の向上等を図り、『街』としての一体感と、より魅力的な空間を創出すべく、2024年夏の完成を目指し着手しています。



**JR中央・総武線
水道橋駅アクセス***
JR東京駅から約**6分**
JR新宿駅から約**14分**
羽田空港から約**45分**
成田空港から約**50分**

**都営三田線
水道橋駅アクセス***
羽田空港から約**45分**
**東京メトロ丸ノ内線・南北線
後楽園駅アクセス***
池袋駅から約**7分**
東京駅から約**9分**

※各所要時間には乗り換え時間は含みません。

リニューアル



国内レジャー施設最大規模の個性的な複数の大型LEDビジョン・モニター群「東京ドームシティビジョンズ」が本格稼働

東京ドームシティ内に、サイズ・形状の異なる複数の大型LEDビジョンを新設しました。特に全長122mの「アベニュースーパーリボンビジョン」は、隣接する芝生広場と合わせ、自然とデジタルが融合したユニークな空間で、多彩な体験価値を提供します。また、行政と連携し、地域の魅力の発信や、災害時の情報発信により防災・防犯機能を向上させ、賑わいの形成や社会基盤としての役割を担います。

リニューアル



導線の強化・老朽化への対応 屋外の広場や通路スペースのリニューアル

より訪れたいくなる、滞在したいくなる空間作りを目指し、東京ドーム周辺の人工地盤と東京ドームシティアトラクションをつなぐ大階段の設置や、通路を活用したお食事や休憩ができるテラスの整備、また水道橋駅から小石川後楽園につながる導線にアート作品を配置することで導線整備のリニューアルを行います。その他、植栽配置の実施や一部外壁の撤去により、回遊性の強化や滞在快適性を向上し、地域に開けた街づくりを行います。

新しいロゴに込められた想い

東京ドームシティのロゴマークを刷新！

リニューアルに合わせ、2023年3月より新たなロゴマークの使用を開始しました。新たなロゴマークは「多彩な“つながり”と“感動”」を最大限表現し、来場するお客様にとって東京ドームシティで過ごすひとときが忘れられない感動体験の場になるよう、これからも新しい顧客体験価値の創造を続けていく東京ドームシティの象徴となります。

TOKYO DOME CITY

心が動く、心に残る。

お客様とここで働くすべてのひとの組織や立場の枠を超えた、多彩なつながり

新しいロゴに込められた想い

書体はオリジナルフォントを開発し、ユニークで親しみやすさを感じさせるデザインを採用しました。多種多様なエンターテインメントを提供する「東京ドームシティ」の多彩な体験価値に呼応して変化する可変性をもたせ、東京ドームシティに新設したビジョン等のデジタルデバイスにも動的に活用することができます。

カラーが意味する東京ドームシティの目指す姿

新たなロゴマークに採用したカラーは、「共生・共存」「多様な価値観の連繋」「持続可能な社会の実現」の理念を掲げる三井不動産グループの一員として、そのアイデンティティとなる『&マーク』に採用される赤（グリーミングサンレッド）と青（シーサファイアブルー）を使用しながら、東京ドームシティの象徴である東京ドームの屋根の形状をモチーフに配色しています。

ブランディング活動およびリニューアル計画の詳細は下記公式サイトでも掲載しています。

<https://www.tokyo-dome.co.jp/branding/>



TOKYO
DOME
CITY



TOKYO
DOME
CITY



TOKYO
DOME
CITY

東京ドームグループの 施設紹介

あらゆる世代のお客様に感動を届けるべく
進化を続けてきた当社グループ。

東京ドームシティ事業をはじめ、
多種多様な事業を展開しています。



東京ドームシティ事業

P07



熱海事業

P20



流通事業・その他の事業

P21



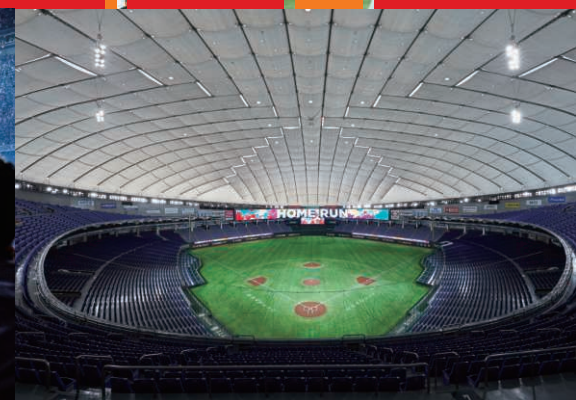


全天候型多目的スタジアム

東京ドーム

東京ドームシティの“顔”とも言える、日本初の全天候型多目的スタジアム。1988年の開場以来、野球をはじめとするスポーツはもちろんのこと、コンサートや展示会など年間を通じて多種多様なビッグイベントが開催されています。天候を気にすることなく、利用者も来場者も安心して使用できます。

開場	1988年	階数	地下2階～地上6階
面積	建築面積 / 46,755㎡	高さ	最高部の高さ / 地上 56.19m
	グラウンド / 13,000㎡		グラウンド面からの高さ / 61.69m
容積	124万㎡	収容人数	野球43,500人 / コンサート55,000人



©2023 GIFT Official



リニューアル

2023年さらなる座席改修を実施

エキサイトシートエリアの拡張や座席の刷新、THE 3rd PLATINUM BOXの増設、車椅子席エリアにおける昇降式カウンターを設置しました。

2022年 東京ドームで
過去最大規模のリニューアル

従来の約4.4倍の面積となる国内最大級のメインビジョンの新設や、入場ゲートおよびコンコースのデザイン刷新、多様な観戦スタイルに対応できる新たな観客席を設置。ほかにも完全キャッシュレス化や顔認証技術の導入などのDXを行い、新しい観戦体験ができるスタジアムへと生まれ変わりました。

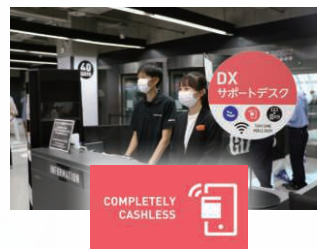
多様なニーズに応える快適な観戦空間

高級感あるボックスシートで寛ぎながら観戦ができる「THE 3rd PLATINUM BOX」や、リゾートをコンセプトにした半個室のグループ席「MASU CABANA」など観客席を大幅リニューアルし、会場との一体感ある空間で快適に観戦を楽しめます。3階エリアのバルコニー席「プレミアムラウンジ」も全面リフォームし、より一層の上質な雰囲気をお楽しみいただけます。



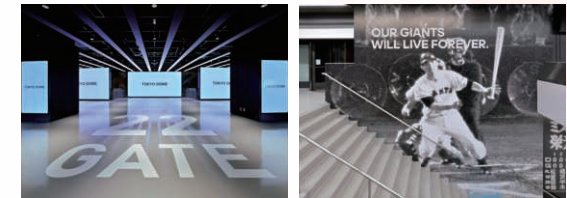
場内を完全キャッシュレス化

2022年シーズンより、場内の全売店、客席販売、場内チケットカウンターなどで、「完全キャッシュレス化」を実現しました。身軽で多彩な決済によって、より快適かつスムーズなお買い物や観戦が楽しめます。現金の受け渡し時にお客様の待ち時間が短縮されるほか、接触機会が減ることで感染症対策の強化にもつながります。



ジャイアンツの世界に没入できるエキサイティングな空間

各入場ゲートのデザインを一新し、新たなグラフィックデザインを施しました。ゲートや壁面には、ジャイアンツの歴史を全面に表現したビジュアルを使用。コンコースには約260台のデジタルサイネージ、内野22ゲートと外野25ゲートのエントランスには大型LEDディスプレイを設置し、お客様がスムーズにジャイアンツの世界に没入できる空間へと生まれ変わりました。



顔認証技術の本格導入

東京ドームで開催するオープン戦・公式戦で、事前登録した顔画像により入場・決済ができるサービス「facethru (フェイスルー)」を採用。専用レーンではスムーズに「顔パス」で入場でき、読売ジャイアンツ直営グッズショップや場内の一部飲食店舗でも手ぶらでお買い物ができます。Suicaによる入場も合わせた認証サービスとして展開します。

提供: パナソニック コネクト





後楽園ホール

“格闘技の聖地”後楽園ホールは、新商品発表会や映画、TV撮影などに利用される最大収容人数約2,000人の多目的ホールです。ボクシングリングもご利用いただけます。

開場	1962年
開場	ホール / 575㎡ 展示会場 / 171㎡
階数	後楽園ホールビル5階～6階
座席数	1,403席



「後楽園ホール」開催イベント例

特別イベント「還暦祭」を開催

2022年4月、後楽園ホール60周年を記念した特別イベント「還暦祭」を開催し、「女子プロレスドリームフェスティバル」と「50周年 新日本プロレス+全日本プロレス」のドリームマッチが実現しました。



後楽園ホール60周年記念特別イベント「還暦祭」



TOKYO DOME CITY HALL

スタンディングで最大3,000人超の収容人数を誇る、都心でも類を見ない多機能ホール。臨場感と一体感にこだわった高性能の音響・照明システムを備え、コンサート、ミュージカル、映画、格闘技、ビジネスなど多様な用途に対応。常に高い稼働率を維持しています。

開場	2008年
面積	フロア面積 / 10,000㎡ 延床面積 / 12,300㎡
階数	MEETS PORT 地下3階～地上2階
収容人数	3,190人



「TOKYO DOME CITY HALL」開催イベント例



©「ヒブシスマイク -Division Rap Battle-」Rule the Stage製作委員会



PRISM HALL

東京ドームシティの中心に位置するマルチコンベンションスペース。最大約2,000人収容のビジネス・展示会系イベントなどさまざまな用途に対応可能なホールです。

開場	1990年
面積	フロア面積 / 2,809㎡
高さ	天井高 / 5m
収容人数	2,085人



「PRISM HALL」開催イベント例



ハンドメイドマルシェ



世界らん展



大人のための遊べるギャラリー

Gallery AaMo

エンターテインメント性とアートの融合による、「楽しさ」と「ライブ感」を体験できる大人のための「遊べる」ギャラリー。最先端のメディアアートから工芸、サブカルチャーまで、さまざまなジャンルの催事を継続的に展開しています。

開場 2017年 面積 フロア面積／830㎡



「Gallery AaMo」開催イベント例

Art + Amusement and More!

AaMoの「A」は「Art」「Amusement」の略、そして「aMo」は「and More」の略です。新しい価値が創造され、東京の新名所として認知されていくことを目指した、欲張りな文化発信拠点です。



「シアターGロッソ」開催イベント例

昭和から続くヒーローショー

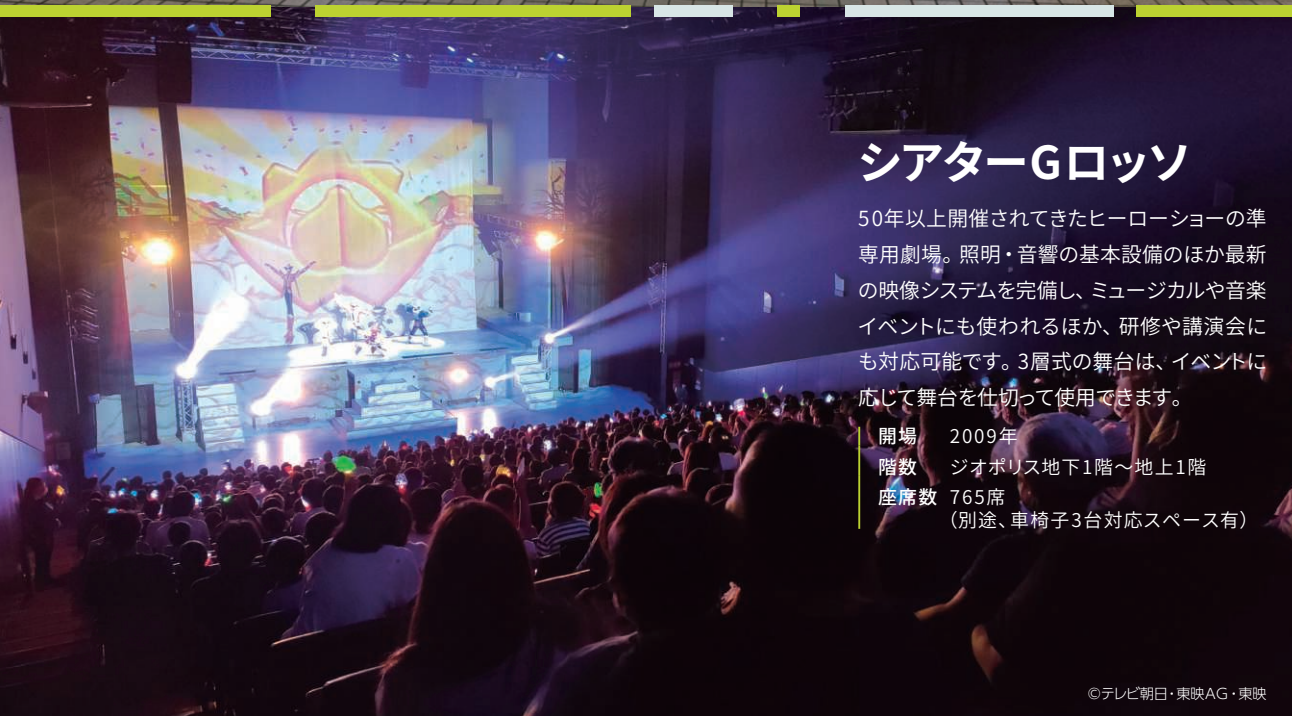
1971年から続く、テレビで見ていたヒーローが目の前で大活躍する、長年お客様から愛されているヒーローショーです。後樂園ゆうえんちの野外劇場ではじまり、スカシアター、そして屋内型の劇場「シアターGロッソ」での公演と、時代とともにヒーローの魅力をもっと引き出しつつ、照明や映像効果でも新しい体験を提供しています。



©石森プロ・東映



©テレビ朝日・東映AG・東映



シアターGロッソ

50年以上開催されてきたヒーローショーの準専用劇場。照明・音響の基本設備のほか最新の映像システムを完備し、ミュージカルや音楽イベントにも使われるほか、研修や講演会にも対応可能です。3層式の舞台は、イベントに応じて舞台を仕切って使用できます。

開場 2009年
階数 ジオポリス地下1階～地上1階
座席数 765席
(別途、車椅子3台対応スペース有)



東京ドームシティ事業

入園無料の都心の遊園地

東京ドームシティ アトラクションズ

小さなお子様から大人まで、入園無料で1日楽しめる遊園地。センターレス大観覧車「ビッグ・オー」や最高斜度80度で急降下するジェットコースター「サンダードルフィン」、雨の日でも楽しめる屋内アトラクション「バックダーン」「ガンガンパトラーズ」など、様々なアトラクションを導入し、お客様をお待ちしています。

開場 1955年(旧・後樂園ゆうえんち)
面積 敷地面積 / 30,000㎡



累計1,000万人以上が乗車した「サンダードルフィン」がリニューアル

2023年4月に登場した新車両は座席や背もたれ、安全バーなどの仕様を一新、夜間はLEDライトが点灯。都会のビル群をハラハラ・ドキドキしながら駆け抜ける爽快感を提供します!



「東京ドームシティアトラクションズ」開催イベント例

年間を通じて様々なイベントを開催

夏期限定イベントとして、お子さま向け水遊び広場「わくわく! ウォーターガーデン」、お化け屋敷「怨霊座敷」夏の特別演出『呪いの硝子窓』を開催。お客様に「いつも何か新しいことをやっている遊園地」と認知していただき、毎回新鮮な気持ちで楽しんでいただけることを目指しています。





都内最大級の屋内型キッズ施設

ASOBono!

ファミリーで楽しめる都内最大級の屋内型キッズ施設。身体を使って遊ぶコーナーや、頭を使って楽しむゲームコーナーなど5つのエリアにわかれ、お子様の成長や性格に合わせて楽しめます。家族力がアップする仕掛け満載の施設です。

開場	2011年
面積	敷地面積 / 1,720㎡
プレイエリア	5箇所
対象	0歳～小学生
定員	500人



スポドリ!

野球、ゴルフ、ボルダリングを楽しめる屋内型スポーツ施設。「スポーツ人(＝スポーツへチャレンジする人)のさまざまな想いを受け止める」をコンセプトに、インストラクターの丁寧な指導により、誰もが気軽に楽しく、また真剣にスポーツにチャレンジできる環境を提供しています。

開場	2013年
面積	フロア面積 / 2,600㎡
階数	黄色いビル3階
エリア	野球エリア、ゴルフエリア、ボルダリングエリア、多目的フィールド



東京ドームシティ事業



東京ドームボウリングセンター

2フロア計54レーンからなるボウリングセンター。40レーンのフロアでは大人数での大会も開催できるほか、バーカウンターが併設されたクーパーラウンジでは、飲食とボウリングを楽しむことができ、幅広いニーズにお応えしています。

開場	1973年
面積	延床面積／3,600㎡
階数	黄色いビル4階～5階
レーン数	54レーン



CuBAR LOUNGE

(クーパーラウンジ)

14レーンの、クラシックで落ち着いた雰囲気のあるボウリングラウンジ。バーで提供されるお酒や軽食とともにボウリングをお楽しみいただけます。ラグジュアリーで個性的な空間は、各種撮影などでも多く利用されています。



東京ドーム ローラースケートアリーナ

なめらかで最高品質なフラットリンク。思い切り滑れる1周約100mのメインリンクと、小さなお子様や初心者でも安心して楽しめるミニリンクを有する都内最大級の屋内ローラースケート施設です。

開場	2011年
面積	フロア面積／1,600㎡
階数	黄色いビル4階
エリア	40m×24mのメインリンク、ミニリンクエリア、ダンスエリア



TaKuSuRu (タクスル)

卓球発祥の地イングランドをモチーフとした施設です。世界選手権で使用されたものと同タイプの卓球台に加え、有名選手使用モデルの卓球用具もご利用できるなど老若男女幅広い客層の方々に楽しんでいただけます。

開場	2018年
面積	87㎡
階数	黄色いビル5階



エンターテインメント型融合商業施設

LaQua

水をテーマに、ショップ&レストラン、アトラクション、スパの3つのゾーンが集結したエンターテインメント型融合商業施設。天然温泉が湧き出るスパと、トレンド感あるショップ&レストラン、バラエティ豊かなアトラクションは、若い女性からファミリーまで幅広い層が楽しめます。開業20周年を迎え、常に「五感を刺激する」サービスを提供し続けています。

開場	2003年	階数	地下2階～地上9階
面積	敷地面積 / 16,000㎡ 延床面積 / 55,500㎡	テナント数	約90店舗



リニューアル

LaQua1階に持ち帰りができる惣菜やスイーツ店舗が並ぶフードゾーン「DELI&DISH」が誕生

日常使いから特別な日に彩りを添える、上質でこだわりの詰まった約25店舗がオープンしました。店舗で購入したフードは、リニューアルされる開放的な屋外スペース「ラクーアガーデン」のテラス席などでお召し上がりいただくことも可能。ラクーアでの新しい食体験を提案します。

商業施設初出店

Atsushi Hatae
(パティスリー)

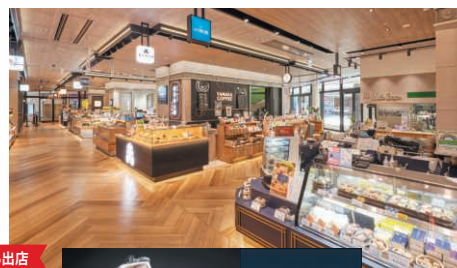


谷根千エリアから出店

千駄木腰塚
(食肉専門店)



DELI & DISH



リニューアル

LaQua1階～4階の店舗ラインナップがさらに充実！

旬のフルーツや食材を使用したタルト専門店「キル フェ ボン」、全国各地から厳選したお米や食品、雑貨などを提案するライフスタイルショップ「AKOMEYA TOKYO」、日々の生活をより豊かに充実させるオーガニックコスメやオーガニックフードを揃える「Biople」、香港で12年連続ミシュラン一つ星に輝いた香港点心専門店「添好運 (ティム・ホー・ワン)」など、特別な日も日常も、いつでも行きたくなる施設を目指して進化します。



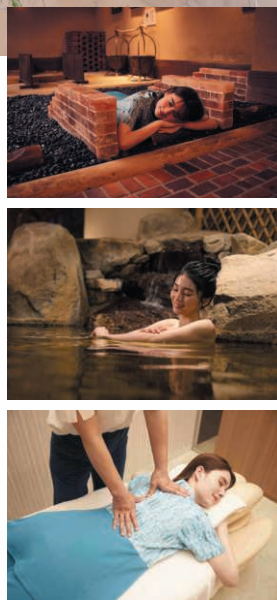


東京ドーム天然温泉

Spa LaQua

都会の真ん中で気軽にリフレッシュできる、国内最大級の温浴施設。東京ドームシティの地下1,700mから湧き出た天然温泉（加熱・循環ろ過式）、大人の楽園ヒーリングバーデ、広々としたリラクゼーションスペースに多種多様なエステ&リラクゼーションサロンなどを併設。海のミネラル豊富な100%の「天然温泉」、「檜浴槽の炭酸泉」、本格的な「フィンランドサウナ」など、「本物」を厳選して、ワンランク上の上質な空間をつくりあげています。

開場 2003年
面積 延床面積／約10,300㎡



リニューアル

Spa LaQua7階～9階「ヒーリングバーデ」エリアを拡張&リニューアル

スパラクーア内9階の「ヒーリングバーデ」エリアを拡張し、新たに岩盤浴室やクールダウンルーム・休憩ルームが増設されました。7階オープンデッキエリアには開放感あるフットプールやバーを新設し、東京ドームシティを眺めながらゆったりとお過ごしいただけるようになり、都心にいながら贅沢なりゾート感溢れる体験が可能な空間を提供します。



NEW

完全個室のプライベートサウナ Sauna Lounge Rentola (サウナ ラウンジ レントラ) 誕生

「Rentola」はフィンランド語で「リラックスする場所」を意味します。毎日が慌ただしい都会の生活でも、フィンランドのように豊かなサウナスタイルを楽しむことができたなら。そんな思いから、すべて完全個室の「自分のためだけのサウナ」をラクーアの最上階に誕生させました。これまでにない広さと開放感のサウナ、そして専用ラウンジを備えた贅沢な空間で、別次元のリラックスとリフレッシュが叶います。





3つの機能を複合化した都会のオアシス

MEETS PORT

水道橋駅をのぞむ東京ドームシティの南東エリアに位置し、上質で多彩なショップ&ダイニング、TOKYO DOME CITY HALL、訪れる人をやさしく出迎える緑あふれるガーデンという3つの機能を複合化した施設です。東京ドームシティ玄関口の好立地にあるため来場者数が多く、周囲や施設内のアートワークも見どころのひとつです。

開場 2008年
面積 敷地面積 / 6,579㎡
延床面積 / 21,405㎡



フード&コミュニティ

Hi! EVERYVALLEY

コンテナを用いた複数の飲食店を中心に、緑やアートなどに囲われた“憩い”“賑わう”フード&コミュニティです。緑あふれるガーデン空間には、1人でもグループでも気軽に利用できる個性的な飲食店に加え、ワクワクする仕掛けが満載です。

開場 2019年
階数 黄色いビル1階～2階
テナント数 5店舗

フードコート

GO-FUN

幅広い層の方々に気軽にお食事をお楽しみいただける6店舗が集まったフードコートです。小さなお子様連れファミリー向けのキッズテーブルコーナー、グループ向けのボックスシートコーナーなど、バラエティ豊かな座席を全部で約300席ご用意しています。

開場 2011年
テナント数 6店舗
席数 約300席





多目的に利用できるシティホテル

東京ドームホテル

1,006室の客室や多彩なレストラン・バー、オリジナリティ溢れる宴会・婚礼施設を備えた地上43階建てのシティホテル。5つの駅に囲まれた都心のどこに行くにも便利な好立地で、観光・レジャーやビジネスの拠点として国内外問わず多くのお客様にご利用いただいております。

開業	2000年	階数	地下3階～地上43階
面積	敷地面積 / 15,865㎡	高さ	155m
	延床面積 / 105,856㎡	客室	1,006室

リニューアル

東京ドームホテルに新コンセプトフロアが誕生 ようこそ、上層の「隠れ家」へ

東京ドームホテルは、2000年開業以来初の大幅な改装を行い、39～41階を「エグゼクティブフロア」として、35～38階を「プレミアムフロア」として2023年春にリニューアルオープンしました。

エグゼクティブフロア (39～41階)

Tokyo Retreatを叶える最上級のおもてなし空間。木の質感を活かしたAuthentic Naturalの落ち着いたデザインは長期滞在に理想的です。



カーペットは皇居グリーンで、景観を品良くインテリアに。落ち着きのある空間です。

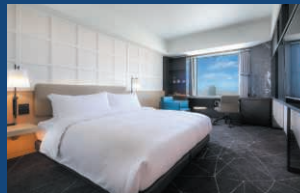


眼下に広がる風景を眺めながら、バーカウンターで特別なひと時をお過ごしいただけます。



エグゼクティブフロアご利用のお客様は“専用ラウンジ”をご利用いただけます。

プレミアムフロア (35～38階)



アクティブとリラックスを同時に求める、都会的でメリハリの効いたお客様にふさわしいフロアです。シックなモノトーンを基調としたUrban Classicsなデザインは、ホテルステイを特別なものに。

高層階でのご朝食とフィットネスルーム



ホテル最上階にある「アーティスト カフェ」でのご朝食は、パークサイド・パレスサイドのパノラマビューをお楽しみいただきながら優雅な一日の始まりを。ウェルネス意識の高いお客様におすすめのフィットネスルームは、充実した設備も魅力です。



NEW

サッカーの未来を感じられる次世代型複合施設

JFA サッカー文化創造拠点 「blue-ing!」

次世代型の体験型コンテンツや最新のデジタル展示、AI 自動生成などが楽しめるエリアでは、最新技術を駆使した想像を超えたサッカーの楽しみが得られます。イベントスペースやカフェ・バー、サッカーショップなども併設し、サッカーファミリーはもちろん、普段サッカーにあまり関わることのない方にも楽しみいただけます。

開場 2023年
面積 約1,200㎡



東京ドームシティ内に
次世代型サッカー文化創造拠点が2023年12月開業！

食事や買物／イベント参加ができる PARKエリア



気軽に入れるPARKでは、“サッカー”や“日本代表”をコンセプトとしたランチメニューを、ディナーではPUB風のフード・ドリンクメニューも取り揃える予定です。また、日本代表のみならず色々なサッカーグッズや限定アイテムも販売します。そして、様々なサッカーイベントや日本代表戦のパブリックビューイングも実施します。

必見！最先端デジタル技術×サッカーを体験できる DISCOVERYエリア



日本サッカーの歴史や名シーンなど、往年のサッカーファンが熱くなるレガシー展示のみならず、人工知能 (AI) や空間再現ディスプレイ (Spatial Reality Display) などの最新のデジタル技術を活用したコンテンツを数多くご用意し、新たなサッカー体験を提供します。

※DISCOVERYエリアは有料入場となります。



東京ドームシティ内に
“演劇と演芸”の新たな拠点が2024年1月開業！

COLUMN

IMM THEATER

**DM (Don't Manager) を務める
明石家さんまさんが劇場名を命名**

IMM THEATERの名称は、さんまさんの座右の銘『(I) 生きてるだけで(M)丸(M) もうけ』の意味が込められつつ、「皆さんの想像で自由に考えてほしい」(さんまDM) というコンセプトで命名されました。ロゴは、出身地の奈良・薬師寺の安田暎胤(やすだ・えいいん) 長老に揮毫いただいた書に、ジミー大西さんのアートを融合させて作成しました。

NEW 吉本興業グループ×東京ドームによる新劇場

IMM THEATER

演劇や演芸等に精通した観客、および制作者双方の目線で設計された劇場設備を有し、オンライン配信にも幅広く対応いたします。歴史と文化と緑に育まれた文京区の新たなエンターテインメント発信拠点として、さまざまなエンターテインメントの制作者やパフォーマーの方々に開かれた、創造意欲を刺激するような劇場を目指します。

開場 2024年
面積 敷地面積：1,692.49㎡
延床面積：1,762.49㎡
座席数 709席
(車椅子席2席含む)



外観・ホワイエ・ホールを3つの色でつなぐデザイン

観客の感動・声援・喜び、笑いを3つの色と光で表現したデザイン。「新たな挑戦」を表現したロープを使った唯一無二な外観にもチャレンジしました。

複合型リゾート

ATAMI BAY RESORT KORAKUEN

従来のタワー館に加え、新館「AQUA SQUARE (アクアスクエア)」が加わった「熱海後樂園ホテル」、日帰り温泉施設「オーシャンスパ Fuua」、伊豆の食材を楽しめるレストラン「HARBOR'S W」と伊豆周辺の美味しい食に出会える「ラ・伊豆 マルシェ」などが集まるマーケット「IZU-ICHI」からなる複合型リゾートです。



熱海事業



施設名・事業名	施設概要
ATAMI BAY RESORT KORAKUEN	2019年開場
熱海後樂園ホテル	1965年開場 地上18階 高さ79m 客室189室
オーシャンスパ Fuua	2019年開場 泉質 カルシウム 一ナトリウム 塩化物泉
IZU-ICHI	2019年開場 店内／256席 テラス／30席 (HARBOR'S W)



熱海後樂園ホテル

贅沢な空間と眺望が人気のエクゼレンシフロアを含むタワー館客室に加え、海を望めるオーシャンビュールームを含む新館「AQUA SQUARE」を合わせたリゾートホテル。



オーシャンスパ Fuua

相模灘を一望できる日帰り温泉施設。日本最大級の露天立ち湯、岩盤浴やロウリュ、海辺のテラスにいるかのような開放的な休憩エリア、カフェ、エステサロンなどを備えています。



流通事業

最新・流行のコスメやビューティーアイテムを提案するセレクトコスメショップ「shop in」「Crème et Rouge」を、関東・関西の都市型ショッピングセンターを中心に約40店舗展開しています。欲しいもの・話題のものがいつも揃っている「コスメの品揃え」・POPや接客を通して商品の特性やオススメが伝わる「商品提案力」・購入前にじっくり比較検討できる「商品を試しやすい環境」をブランドの強みとして、コスメ選びを楽しむ20～30代の女性を中心としたお客様の支持を集めています。

施設名・事業名	施設概要	
shop in (ショッピングイン)	関東エリア	22店舗
	関西エリア	18店舗
	中国エリア	1店舗
	計	41店舗
Crème et Rouge (クレームエールージュ)	1店舗 (阪急三番街店)	



大阪府大阪市「あべのキューズモール店」

(2023年8月現在)



その他の事業



競輪事業

施設名・事業名	施設概要
松戸競輪場	敷地面積：48,791㎡ 建築面積：37,703㎡ 競走路周長：333.33m



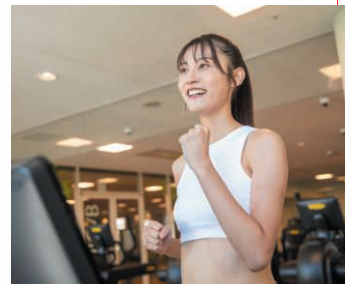
不動産事業

施設名・事業名	施設概要
プチモール ニツ木	商業テナントビル/ 地上2階 テナント5店舗
柿の木坂 BMWビル	商業テナントビル/ 地下1階～地上2階
代々木 イーストビル	オフィステナントビル/ 地上8階

NEW

「三井ショッピングパークららテラス HARUMI FLAG」に「フィットネスクラブ東京ドーム」のジム・スタジオ型がオープン

TOKYO DOME CITY内「フィットネスクラブ東京ドーム」のジム・スタジオ型クラブが晴海にオープン（2024年3月開業）。“MODERN Style”な空間には目的別に分けられた4つのエリアでプライベート空間を重視したトレーニングジムとエキサイティングなバーチャルプログラム専用他2面のスタジオを配置。お子様の成長をサポートする様々なスタジオキッズスクールも展開。



店舗名	施設概要
FitLand TOKYO DOME フィットランド 東京ドーム	会員制フィットネスクラブ (ジム・スタジオ2面)



施設名・事業名	施設概要
直営スポーツ施設 フィットネスクラブ東京ドーム	トレーニングマシン100台以上、フィットネススタジオ2室、フィットネスプール (25m×6コース、20m×2コース)、ジャグジー
後楽園スポーツクラブ調布	屋内温水プール (25m×15m 7コース)、トレーニングルーム、スタジオ、ギャラリー、スクール会員用ロッカー、体操場、バスルーム (サウナ)、ロッカールーム、シャワー室、採暖室
後楽園スイミングスクールひばりが丘	屋内温水プール (25m×13m)、体操室、採暖室、ロッカールーム、ギャラリー室、シャワー室
グループ会社	事業内容
進商事株式会社	損害保険・生命保険代理店事業等
株式会社東京ドームファシリティーズ	清掃管理請負・ビル管理事業等

蓄積されたノウハウを活かし、質の高いトータルソリューションを提供しています。

施設運営

世代を問わず、多様なお客様の「心を動かす」施設が揃っています。

- 接客対応
- 施設運営管理

東京ドームグループは多彩なイベントやキャンペーン、健康増進プログラムなどの実現を可能にする「心を動かす」施設の運営ノウハウを備えています。あらゆる世代が質の高い接客により気持ちよく施設を利用でき、多種多様なイベントが安全・安心・快適に開催される施設を運営し、維持管理・保守点検するワンストップのサービスをお客様のニーズに沿って提供しています。また、長年の施設運営管理で培った専門的知見の高さを活かしたアドバイザーもっております。

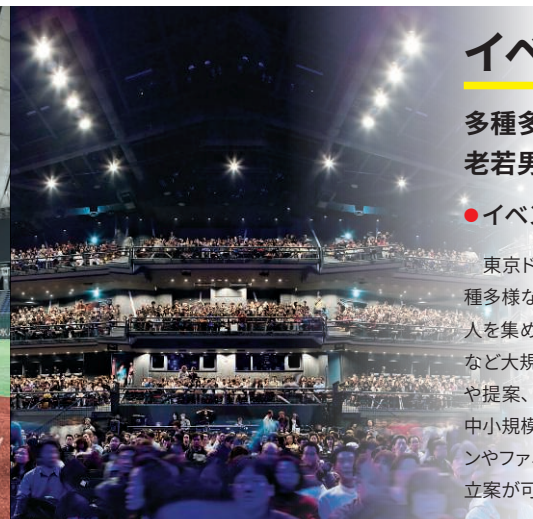


イベント運営

多種多様なイベントを常に開催し、老若男女問わず多くの人を集めています。

- イベント企画
- 提案
- プログラム構築

東京ドームグループでは、さまざまなターゲットに向けた多種多様なイベントを年間通じて開催し、老若男女問わず多くの人を集めています。プロ野球やコンサートはもとより、展示会など大規模コンベンションの導入も増えており、イベント企画や提案、プログラム構築に多くの知見を有しています。また、中小規模のイベントでも、最新のトレンドを意識したキャンペーンやファミリーで楽しめるプログラムなど、集客力のある企画立案が可能です。



トータルソリューションとして東京ドームシティ外に提供 グループの総合力で実現する良質なサービスとコストパフォーマンス

全国の様々な施設において、大小合わせて年間100以上のイベントを行っており、地元の方向けのイベントから豊富なリレーションを活かしたオリンピックやトップアスリートのイベント、サーカスや格闘技イベント等、バリエーションに富んだイベント企画・実施が可能です。コロナ禍においては、自主的なオンラインイベントの開催も行い、普段は施設にお越しになれない方向向けのイベント開催も行いました。ニーズに合わせたリアル・オンラインの様々なイベントを、一般企業や行政・自治体の施設においても、企画から実施まで一手に提供することが可能です。



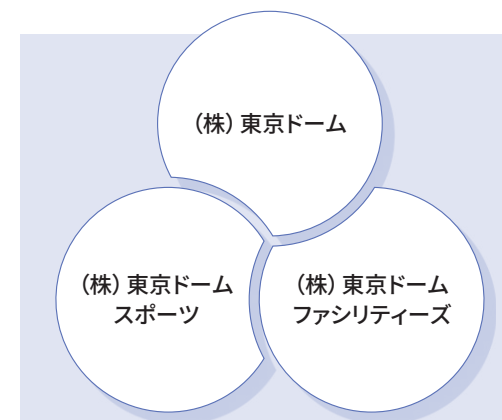
東京ドームグループが運営する公共スポーツ施設

東京ドームグループのPPP事業 (Public Private Partnership) では、主に指定管理者制度を利用した施設の運営管理受託 (行政業務の代行) を行っています。質の高い行政サービスを地域住民に提供したいと考える地方自治体からは、東京ドームグループのPPP事業について高く評価いただいています。特に、最も多く運営管理を受託する体育館などの公共スポーツ施設では、民間フィットネスクラブを経営してきた東京ドームグループならではの健康増進や競技力向上に資する多彩なスタジオプログラムやお子様向けのスクール事業の提供が、地方自治体や地域の利用者から大変喜ばれています。

また、各現場で東京ドームグループの経営理念「私たちは 人とひととのふれあいを通して お客様と「感動」を共有し 豊かな社会の実現に貢献します」を実践すべく、(株)東京ドームの教育センター部と連携した研修計画などを立案・実行しています。今後は、民間資金やノウハウを活用して効率的な施設整備や管理運営を行うPFI方式 (Private Finance Initiative) での施設運営にも積極的に取り組んでまいります。

高く評価される東京ドームグループのPPP事業

- ① 安全・安心な環境整備手法
- ② 施設の運営管理に対して総合的な提案が可能
- ③ 東京ドームの資源を活用したイベント企画
- ④ 充実したスポーツプログラムの提供ノウハウ



当社グループでは、一般企業や行政・自治体においても、グループ各社が長年培ってきたイベント企画、スポーツ施設運営、施設管理などのノウハウをひとつにまとめたトータルソリューションを提供しています。さまざまなジャンルの集客イベントやスクールプログラムの企画・運営、ビル・施設などの運営・保守・管理など質の高いサービスを展開します。

主な業務受託施設

- 山形県天童市子育て未来館 げんキッズ ● 山形県山市総合子どもセンター「めんごりあ」 ● 本庄市中央地域の都市公園および体育施設 ● 東京ドームスポーツセンター東久留米 (東久留米市スポーツセンター)
- 東村山市市民ステーションサンバルネ ● 西東京市スポーツ・運動施設10施設 ● 文京総合体育館ほか6スポーツ施設 ● 練馬区立中村南スポーツ交流センター
- 練馬区立平和台体育館ほか3施設 ● 豊島区立巣鴨体育館 ● 豊島区IKE・Biz としま産業振興プラザ ● 流山市民総合体育館ほか8体育施設 ● 流山市向小金福祉会館・児童センター
- 松戸市小金原市民センターほか7市民センター ● 松戸市市民交流会館「すまいる」 ● 我孫子市あびこ市民活動ステーション ● 印西市市民活動支援センター
- 南アルプス市 遊・湯ふれあい公園 後楽園スポーツクラブ ● 松塩地区広域施設組合「ラーラ松本」「平瀬運動公園」 ● 静岡県草薙総合運動場 ● 熱海市マリンスパあたま ● 熱海市熱海海浜公園
- 熊本県菊池市総合体育館 ほか



● 武蔵野の森総合スポーツプラザ



● 板橋区立体育施設 22施設



● 静岡県草薙総合運動場

新たな感動体験創出のための取り組み

日本最大級のエンターテインメントエリアである東京ドームシティ。

国境も、言語も、時間も、仮想も現実も、あらゆる境界が融合していくこの時代だからこそ生まれる新たな感動を生み出すための、様々な取り組みに挑戦しています。

東京ドームシティ発の新プロジェクト「enXross(エンクロス)」を発足

デジタル技術を活用した経済圏創出やお客様の感動体験アップデートに取り組み、社会に新しい価値や感動体験を提供するエンターテインメントとイノベーションのプロジェクト「enXross」を新たに立ち上げました。2023年12月には、ブロックチェーン技術の活用と新たなアイデアの創出を目的としたビジネスイベント「enXross AWARD/EXHIBITION」を実施しました。今後もエンターテインメントとテクノロジーの掛け合わせを行い、東京ドームシティから新たな感動体験を産み出すプロジェクトを推進していきます。

世界のアイデアが交差する「enXross AWARD」

スタンフォード大学のStanford Blockchain Clubとの連携により企画構想が始まったアイデアピッチコンテストです。賞金総額1,000万円、最優秀賞500万円のコンテストには、国内外より多数のアイデアの応募がありました。今後は、受賞したアイデアの具現化に向けて協業での事業開発を予定しています。



世界から集まる新体験「enXross EXHIBITION」

「Web3×エンタメ」をテーマに、ブロックチェーンの専門家やNFTのプロジェクト実行者を多数招聘したトークイベントや、協賛企業のブース展示を実施しました。トークセッションでは、Web3のエンタメ領域での展望を語っていただき、ブース展示では各社の最先端の取り組みを紹介していただきました。



リアルを超えた価値提供を目指して バーチャル東京ドームを様々なプラットフォームで展開中

リアルアセットを超えるエンターテインメントを追求するため、複数のメタバースプラットフォームにて東京ドームをモデルとした空間を提供しています。東京ドームのグラウンド内を走り回る、熱いバトルロイヤルを楽しむ、アーティスト気分でライブ配信を行う等、いつでも・どこでも、だれとでも、スマートフォンなどから多様なエンターテインメントを楽しむことができます。



スマホ向けVRプラットフォームREVWORLDS内のバーチャル東京ドーム



スマートフォン向けアプリ「REALITY」内に仮想ライブステージ「東京ドームワールド」を出展
(出展期間：2022年11月～2023年2月)



オンラインゲーム「Fortnite」のメタバース空間に東京ドームをモデルとしたマップ「Tokyo Dome WARS」を公開

東京ドームグループの サステナビリティ

東京ドームグループでは「安全」「人材」「環境」「社会」の観点から、サステナビリティに配慮した事業運営を行っております。



安全

P26



人材

P28



環境

P32



社会

P34



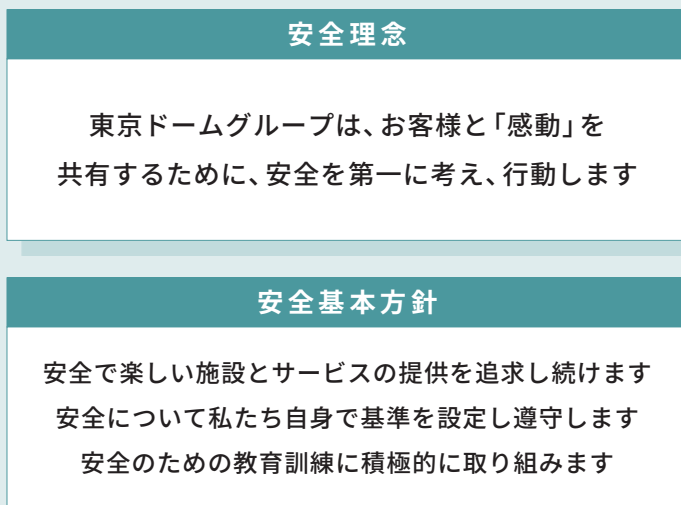
サステナビリティ [安全]

常にお客様に安心して楽しんでいただくために、さまざまな安全対策を講じています。

当社においては「安全こそが当社グループの存立基盤である」ことを強く認識し、「安全理念・安全基本方針」のもと、日々「いつも安全・安心な環境を保ち続ける取り組み」～施設・設備への更新投資の継続、安全管理体制の推進と拡充、テロ対策強化や、防災・防犯の教育、訓練活動の拡充～を強化しています。

具体的には、お客様および従業員に対する総合的な安全管理体制構築の推進を所轄する部署として、安全推進室※を設置し、当社代表取締役社長が経営において安全面を重視して判断する責任を負う統括安全管理者に就任しています。同室は、年次総合安全計画の策定、総合安全活動に関する企画立案・推進、安全監査、リスクアセスメント、年次総合安全報告書の策定などを担当し、安全確保の施策全般をスパイラルアップさせていくためのPDCAサイクルの仕組みをつくり、機能・維持しています。また2017年4月より「インシデント情報管理システム」を導入、当社グループ内で発生した不具合やヒヤリハット事例などのほか、社外施設の事故・災害に関する情報をデータベース化しています。関連情報を全役職員で共有することにより、継続的な安全啓発を図り、当社グループの安全に関する活動のさらなる推進につなげています。さらに2019年からは、「安全活動モデルAAA (トリプルエー)」についてグループ全体に周知活動を展開しています。

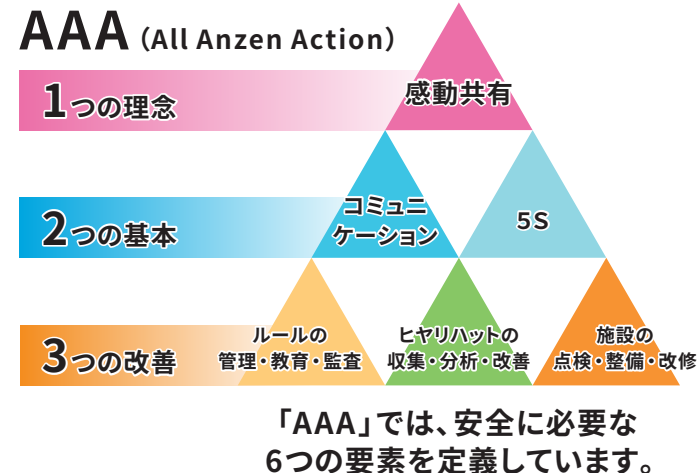
※2021年10月より安全推進室の業務を継承し、グループ全体のリスクを統括する部署としてリスク管理部を設置しております。



グループ全体での効果的な安全マネジメントシステムの構築を目指して

東京ドームグループ 安全活動モデルAAA (All Anzen Action)

当社グループは、従来から東京ドームシティ アトラクションズが取り組む「安全活動モデルAAA」をグループ横断的に実行するための周知活動を展開しています。「AAA」は、東京ドームグループすべての (all)、安全管理における (anzen)、行動 (action) を網羅的かつ分かりやすく体系化したもので、今後「AAA」を基準とすることで、現状の安全活動における弱い面・漏れなどにいち早く気づき、強化いたします。当社グループは安全理念および安全基本方針の徹底を図るためさまざまな取り組みを行ってまいりましたが、「AAA」導入により、グループ全体でよりレベルの高い安全管理体制の構築を進めてまいります。





サステナビリティ [安全]

「安全理念・安全基本方針」のもと「安全文化」を築き上げるための努力を継続します。

「安全の日」と「安全週間」



安全に関する取り組み

安全に対する強い意識を新たにする日として、1月30日を「安全の日」と制定しています。また、1月30日から2月5日までの1週間を「安全週間」とし、各事業所や各施設における安全の総合点検、統括安全管理者による安全巡視を行っています。

安全啓発室



安全啓発室

2017年1月30日、「東京ドームグループ安全啓発室」を設置しました。2011年1月30日のお客様死亡事故時の舞姫搬器の一部や、事故概要などのパネルを恒常的に展示し、安全文化の醸成と安全意識の向上のために、全従業員の安全教育の場として活用しています。

テロ対策で警視庁より表彰



長岡社長(右)へ感謝状を授与

東京ドームシティは警視庁と連携し、さまざまな自主警備活動・テロ対策を行っています。2022年7月には、アメリカ合衆国・バイデン大統領来日時の警視庁のテロ対策への協力および東京ドームシティでの特別警戒体制の実施に対し、警視庁富坂警察署長より「感謝状」が贈られました。

安全管理講習会



安全に関する取り組み

東京ドームシティ アトラクションズでは、安全管理を強化するための講習会を実施しています。2022年1月期には舞姫事故講習会、運行管理者勉強会、運転者講習会、緊急時対応訓練など、年間で1,000回以上の各種講習会などを実施しました。

防災訓練



災害対策本部

大規模災害により同時多発的に火災や負傷者などの被害が発生したという想定で各自衛消防隊の部分訓練の強化と連携訓練を定期的に行っています。災害対策本部や災害対策班は、実際に近いシナリオなきブラインド型訓練を行うことで状況に応じた対応力を養っています。



東京ドームワクチン合同接種事業に対する文京区表彰

(株)読売巨人軍と(株)読売新聞東京本社、当社の3社は、東京ドームで行われた新型コロナウイルスワクチンの合同接種事業に貢献したとして、文京区から「企業市民栄誉賞」を授与されました。2023年1月5日、東京ドームホテルにて表彰式が行われ、成澤文京区長より表彰状が贈られました。授与の対象となったのは、東京ドームで2021年8月から2022年5月にかけて計54日間にわたって実施したワクチン接種です。

主に巨人戦のナイター開催日の試合前の時間を利用し、2階コンコースに接種会場を設営して1～3回目の接種計約72,000回を実施しました。

文京区長(中央)から企業市民栄誉賞を授与



サステナビリティ [人材]

ホスピタリティを行動にする人材育成と各種施策に取り組んでいます。

現在そして将来に向けて東京ドームグループの発展と成長の礎となるのは、継続的な人材育成にほかなりません。特にこれからの当社グループが必要とするのは“地力がある人材”です。東京ドームシティの現場ではハード面でグローバル化・ユニバーサル化に対応していますが、最後はすべての現場の最前線にいる社員の対応、ソフト面にかかっています。そのため、組織のひとつの駒として動くのではなく、自分自身で考え、周囲を巻き込みリードしていきける人材を育てていきたいと考えています。社員の成長を応援する体制として、階層別研修や自己啓発プログラム（資格取得支援、通信教育援助、社外セミナーへの派遣等）など、さまざまな研修プログラムを用意し、社員一人ひとりの成長意欲の向上をサポートしています。

また、東京ドームグループ教育センターによるグループ全体の従業員に向けた教育・研修のほか、定期的な「東京ドームシティ No.1プロジェクト」の開催をはじめとしたCS向上活動を通して、東京ドームシティで働くスタッフが接客技術を磨いています。更には、外部機関との資本業務提携を通じて、サービスのIT化にも積極的に取り組むほか、バリアフリー化や熱中症対策など、多様性のあるすべてのお客様が、安心して楽しんでいただける場を持続的に提供するための各種施策に取り組んでいます。

東京ドームグループ教育センター ～現場の力を強くする～

東京ドームグループは、顧客満足度を高めていくために第一線で働く従業員への教育にも力を入れています。

東京ドームグループ教育センターでは「現場の力を強くする」を合い言葉に、現場モニタリング・研修・教育資料の共有などを進めています。

- 研修例**
- 現場トレーニングのコツを学ぶトレーナー研修
 - チームビルディング研修
 - 接客研修
 - 課題解決ワーク
 - 多様性理解ワークショップ 等

東京ドームグループの大切にしている思いを核にしなが、働く上で必要な知識やスキルを学べるようになっていきます。従業員一人ひとりが働くことに喜びや楽しみを持つこと、それがお客様へのよりよいサービスにつながり顧客満足度を高めていってくれると考え取り組んでいます。





サステナビリティ [人材]

働くことに喜びや楽しみを持つことが、お客様へのよりよいサービスにつながると考えます。

「東京ドームシティ No.1プロジェクト」の開催

東京ドームシティは「ここにしかないエンターテインメントシティ」を実現し、お客様や働く仲間の「心が動く、心に残る」街でありたいと考えています。1人でも多くの方にファンになっていただくために、東京ドームシティ全体の接客力を高める『No.1プロジェクト』に取り組んでいます。2023年度は約90施設・店舗がエントリーし、研修やロールプレイングコンテストに参加しました。取り組みを通じた施設店舗同士のつながりは、働く仲間の意識を高めることはもちろん、お客様との感動の共有につながっています。

- 具体的な活動
- 約150施設・店舗を対象とした「覆面調査」による現状分析
 - 施設・店舗責任者とロールプレイングコンテスト出場者への「課題認識研修」「サービス関連研修」
 - 施設・店舗責任者を対象とした「個別相談会」
 - 店舗代表者による「接客ロールプレイングコンテスト」



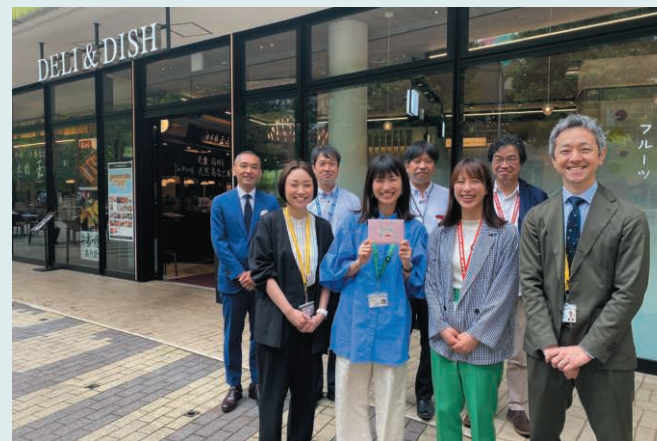
DX人材育成施策「DXアベンジャーズ」

東京ドームグループ全体でのさらなるDX推進のため、DXの取り組みをリード・実行できる人材を増やし支援するべく、継続的にDX人材育成施策を展開しています。2021年4月からは、DX推進を担うコアメンバーの育成を目的に、選抜型専門領域研修「DXアベンジャーズ」を開始しました。DXプロジェクトを推進する上でのビジネス・テクノロジーの現状理解から、新ビジネスモデル構築までのプロセスを体験する演習・議論中心のプログラムを展開しております。

“感動の輪”を広げるしくみ「ほめポス」

東京ドームグループは、お客様と感動を共有するだけでなく、ともに働く仲間との感動の共有も大切にしています。2021年に発足したほめポス（お褒めポスト）は、従業員が東京ドームグループの施設を利用して、スタッフの接客やサービスに対して「素敵だな」と感じたことや、普段なかなか伝えられない仲間への感謝の気持ちを発信・共有できるしくみです。従業員の体験を発信するだけでなく、お客様からいただいた感謝のお言葉も共有することができます。褒める・褒め合うというコミュニケーションの活性化が従業員の意欲を高め、パフォーマンス向上へとつながります。

東京ドームグループのさまざまなところでお客様の期待を超えて感動を共有する場面が増えることで、経営理念の実現を目指しています。





サステナビリティ [人材]

従業員が個性や能力を発揮できるよう、人材育成のためのさまざまな取り組みを推進しています。

ダイバーシティ&インクルージョン

多様性を受け入れ、尊重し合える風土づくりを実現すべく、人種・国籍・宗教・性別・年齢・障がいの有無などに関わらず、誰もが活躍できる制度の整備と従業員の意識改革に取り組んでいます。

- 取り組み例**
- 個人のスキルを発揮しながら働くことができる「障がい者雇用の推進」
 - 定年退職後の雇用支援「セカンドキャリア制度」
 - 自分自身の無意識の偏見を知る「アンコンシャスバイアスワークショップ」
 - アルバイト雇用のオリエンテーションへの「手話字幕付き映像の活用」

一般事業主行動計画 (取り組み期間2021/4/1~2026/3/31)

- 女性活躍推進法にかかるとの行動計画**
- ① 正社員総合職採用者に占める女性比率40%を維持する
 - ② 女性管理職比率10%を目指す
 - ③ 年次有給休暇の取得率70%を目指す

- 次世代育成支援対策推進法にかかるとの行動計画**
- ① 育児を行う従業員へ利用できる制度の周知
 - ② 時間外労働削減のための措置を継続
 - ③ 子育てを行う従業員が就業を継続し、活躍できる取り組みを実施

障がい者雇用の取り組み

2020年6月、障害者雇用促進法に基づく特例子会社「株式会社東京ドームウィズ」を設立し、障がい者の雇用機会創出・拡大に取り組んでいます。

東京ドームグループは「人とひととのつながり」によって成長することを目指し、障がい者と健常者がお互いを尊重して信頼性を高め、ともにやりがいを持っていきいきと働ける職場づくりを推進しています。2023年10月現在、同社における障がい者雇用数は29名で、東京ドームシティの各事業所のバックヤード業務、従業員カフェ運営、東京ドームホテルのベッドメイク他客室業務などを行っています。従業員一人ひとりの個性を生かしながら、今後もさらなる職域の拡大に取り組んでいきます。

新規事業社内提案制度「mokuMOKU」

新規事業を創出することを目的に、全社的に社員から新たな事業アイデアを募るため、2020年に「mokuMOKU」はスタートしました。

新規事業創出を実行できる人材を増やし支援すべく、新規事業に対する知見を深める学びの場として、ワークショップやオンラインプレスト、メンタリングなどを定期的に行っています。交流会の開催やslackでのコミュニティを形成し、アイデアの種が生まれやすい環境づくりに取り組んでいます。

また、プロの専門家による伴走型の支援を受けることもできます。より質の高い支援を受けることで、事業内容は日々ブラッシュアップされています。

2021年秋には初の社内ビジネスコンテストとなったmokuMOKU AWARDを開催しました。選ばれたチームのみがステージに立ってプレゼンをして競い合い、勝ち上がったチームは事業化に向けてさらなる仮説検証を行っていきます。

- 活動内容**
- アイデアの発案、質向上のための学習支援&コミュニティの形成プログラム
 - プロの専門家による伴走型の支援
 - 新規事業提案ピッチコンテストmokuMOKU AWARDの開催



mokuMOKU AWARD出場者から

新規事業開発は「ビジネスの総合格闘技」だと思っています。これまでの全ての経験が生きました。ここで得た全ての経験が本業でも生きています。まだまだ途上ですが、ユーザーインタビューを繰り返し、業界関係者に突撃し、プレゼンを重ねながら検証を進めていくプロセスは、大袈裟ではなく第二の青春です。手厚いサポートもあります。難しい局面もパッションでなんとかなっています。誰もが熱きチャレンジャーになれる場所がmokuMOKUです！





サステナビリティ [人材]

職場環境の整備に努め、社員一人ひとりの成長を企業の力に変えていきます。

多様な働き方を実現するさまざまな制度

産前・産後休暇後、子どもが1歳(条件付きで2歳)になるまで取得できる「育児休業」や、介護時短勤務や育児短時間勤務で働くことができる「ワークサポートコース」制度など、さまざまな制度を設けています。

産前・産後休暇

育児休業

介護休業

ワークサポートコース

年次有給休暇
(時間単位付与あり)

おでかけサポート
(視察支援制度)

オフィスリニューアル

従来の部署毎に個室で区切られたオフィスでは「コミュニケーションが取りづらい」「部署間の横のつながりが生まれづらい」などの課題があったため、原則として部屋の仕切りをなくした構造とし、シナジーが生まれやすい環境を整えました。

また、執務エリアだけではなく、コミュニケーションスペースを作り、仕事以外でも気軽に会話ができるオフィスづくりに取り組みました。

あわせて新設されたカフェテリアでは、2020年に障がい者の雇用機会創出・拡大を図るために設立した「株式会社東京ドームウィズ」のスタッフが勤務しています。カフェでは同社の北戸田事業所で栽培したハーブティーの提供も行っております。



(株)東京ドームの働き方

女性管理職比率



11.7%

(2023年4月時点)

月平均所定外労働時間



7.9時間

(2022年度)

過去5年間の新卒採用者定着率



94.0%

(2023年4月時点)

男性の育休・配偶者出産休暇取得率



84.6%

(2022年度)

正社員数・平均年齢



男性
315名 / 42.5歳



女性
201名 / 44.3歳

(2023年3月期)

平均勤続年数



18.6年

(2023年3月期)



サステナビリティ [環境]

脱炭素社会の実現に向けた積極的な環境保全に努めています。

事業活動で発生する環境負荷の低減に向けて、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。環境に配慮したシステムの導入や専門組織の設置など、地球温暖化防止をはじめとする持続的な環境保全を積極的に推進しています。

東京ドームグループは、お客様と「感動」を共有し、持続的に企業価値を創出するためには、広く社会と共生・共存し、地球規模での脱炭素社会の実現に向けた積極的な取り組みが必須であると考えております。

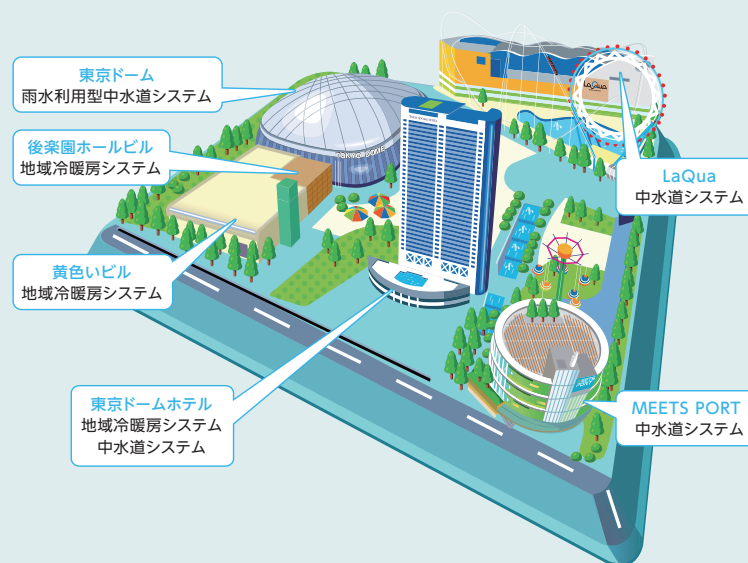
当社グループでは、三井不動産グループが掲げる温室効果ガス排出量削減基準を新たな目標として掲げ、今後も各種施策に取り組んでまいります。

**三井不動産グループ全体の温室効果ガス排出量を
2030年度までに40%削減 (2019年度比)
2050年度までにネットゼロ**

※SCOPE1+SCOPE2は2030年度までに46.2%削減 (2019年度比)

東京ドームアリーナ内の全照明LED化をはじめ、 省エネ関連設備を積極的に導入

東京ドームシティでは、各施設にて省エネルギーの推進と環境負荷の低減をいち早く実現しています。2016年からの東京ドーム大規模リニューアルにおいては、アリーナ内の全照明をLEDに更新しました。また、その他の省エネ対策として、「東京ドームの雨水再利用システム」「地域冷暖房システム」「微細な電力制御による省エネ効率の高いインバータ設備」「『エネルギーの見える化』システム」をはじめとした設備を積極的に導入しています。





サステナビリティ [環境]

事業活動で発生する環境負荷の低減に向けて、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。

リサイクルへの積極的な取り組み

東京ドームでは、環境への配慮として場内のゴミ箱をリニューアルし、ゴミの分別回収促進・リサイクル向上に努めるとともに、飲食売店では、環境に配慮した素材を使用した包材を使用して、環境負荷低減への取り組みを推進しています。

また、東京ドームシティ全域に集められた使用済みペットボトルを回収して新たなペットボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」水平リサイクルを本格始動したほか、回収したペットボトルキャップから再生品化したゴミ袋 (CircleX) を東京ドームシティで使用することでCO₂排出量の削減に寄与しています。

さらに、2023年のインフォメーションユニフォームリニューアルでは、従来使用していたユニフォームを車の緩衝材や防水材等へリサイクル処理しました。新ユニフォームによるブランディングの体現を通して、環境にも配慮した取り組みを実施しています。



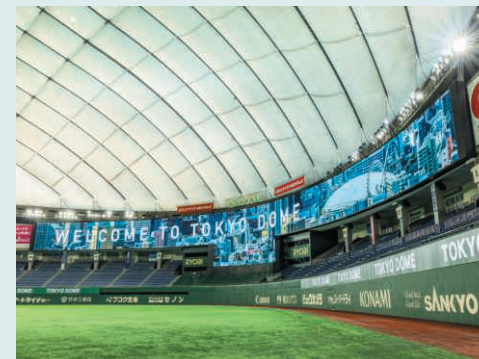
松戸競輪場にソーラーパネルを設置



エネルギー利用の合理化および地球温暖化対策の一環として、松戸公産(株)が運営する松戸競輪場(千葉県松戸市)に太陽光パネルを設置しております。

電力グリーン化の取り組み

三井不動産グループの脱炭素社会の実現に向けてのグループ行動計画「2030年度までに全国の保有物件共用部・自社利用部の電力をグリーン化」の方針に沿って、東京ドームグループとしては2023年度より東京ドーム(スタジアム)の物件共用部・自社利用部で使用する電力は全てRE100対応の再生可能エネルギー由来の電力を使用しております。



shop in 制服製作におけるCO₂削減への貢献(カーボンオフセット)

ショップイン・クレームエージェンシーでは2019年に制服をリニューアル。制服を製作するにあたりカーボンオフセットに取り組み、1,650kg分のオフセットをいたしました。カーボンオフセットとは日常生活や企業活動において避けることができないCO₂等の温室効果ガスの排出を、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、間接的に相殺(オフセット)とするという仕組みです。制服製作を介して様々な環境・社会貢献に取り組んでいます。





サステナビリティ [社会]

地域の皆様との共存共栄による持続的な企業価値の向上を目指し、幅広い取り組みを行っています。

持続的に企業価値を向上させていくためには、地域の皆様とともに歩みを進めていくことが不可欠です。そこで、イベントの企画、防災、定期的な地域の美化活動、文化事業の支援、自社施設へのご招待など、地域住民の皆様と密着した幅広い取り組みを実施しています。東京ドームシティのある文京区はもとより、熱海や松戸など、当社グループが事業を営む地域の皆様との関係を大切にしながら事業を営んでいきます。

来場者と地域住民の安全確保

東京ドームシティは「東京都震災対策条例」に基づき、東京都から、大地震に伴う大規模な市街地火災などに際し、住民が避難するための「緊急避難場所」に指定されています。災害時には一時的に避難してきた人や行き場のない帰宅困難者の安全確保が全従業員の最優先事項となっています。災害時には、災害対策本部が設置され、東京ドームシティ内にある8つの自衛消防隊を指揮し、被害を最小限に抑えるために活動します。このため東京ドームシティでは、年間2,000回以上の防災・安全訓練を行うとともに、総合防災訓練では、従業員のほかに地元消防や警察も参加して防災への意識を高めています。

文京区(東京都)と、災害時の相互協力に関する協定を締結

文京区と当社は、災害時における相互協力に関する協定を締結しています(2013年締結、2019年一部見直し)。この協定は、災害時の帰宅困難者対策として、当社が一時滞在施設の提供などを行うものです。災害時には、文京区の要請により東京ドームシティの一部施設において、当日のイベントなどを考慮の上、帰宅困難者を可能な限り受け入れます。

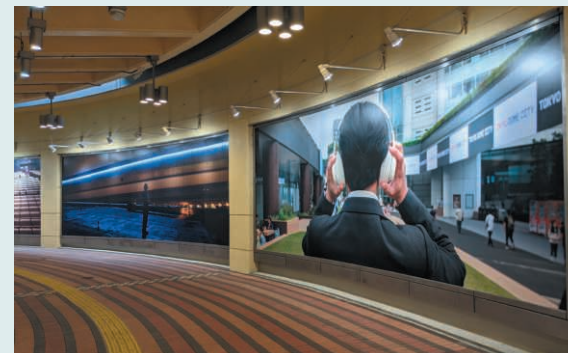
地域の美化活動

東京ドームシティで働くスタッフが毎月1回、およそ1時間をかけて東京ドームシティ周辺の公道を清掃しています。専用のオレンジ色のベストを着用して清掃に参加するスタッフは社内では「クリーンレンジャー」と呼ばれており、今後も継続して地域環境の向上を目指してまいります。



「東京ドームシティアートプロジェクト」の実施

東京ドームシティとアートの可能性の探求をテーマに、2022年5月から5年間を活動期間とし、東京ドーム、東京藝術大学、東京藝術大学芸術創造機構の3者が連携し、東京ドームシティという場所を持つ固有の魅力の調査研究、様々なお客様が様々な形でアートの楽しさや素晴らしさに触



れられる機会の創出、若手アーティストの活動、活躍の場の創出を行います。これらの活動により、アートを基盤としたこれまでにない企業価値向上の仕組み構築を図り、アート文化の発展や、アートを通じた社会課題の解決、社会的豊かさの創出を目指します。

企業訪問の受け入れ

「東京ドーム」を中心に、遊園地事業やホテル事業など、日本国内でさまざまなジャンルのレジャー事業を展開し続けている当社は、社会を構成する一員として、学校教育の支援を目的として、全国の児童・生徒の皆様の企業訪問活動に積極的に対応しています。中学生を中心に、多くの児童・生徒の方々に訪問いただき、レジャー産業ならびに当社事業への関心と理解を深めていただいています。また、オンラインでの企業訪問も受け付けております。



東京ドームグループの歴史はお客様との「感動共有」の歴史です

- 1936** (株)後楽園スタジアム創立
- 1937** (株)後楽園野球クラブ(球団名 イーグルス)設立
～1938年株式譲渡 ※1943年解散
後楽園スタジアム(野球場)開場
- 1942** 後楽園不動産(株)設立
- 1946** 後楽園スタジアム3階に囲碁・将棋遊技場開場
以降、多角経営に進出
- 1949** 東京証券取引所に株式上場登録
大阪証券取引所に株式上場登録 ～2009年上場廃止
後楽園競輪場開場
～1973年都営競輪廃止後、後楽園競技場と名称変更し
夏期はプール、冬期はゴルフ練習場として営業 ～1984年開場
- 1955** 後楽園ゆうえんち(現・東京ドームシティ アトラクションズ)開場
野球以外のレジャー施設も球場の周りに
次々と誕生する中、「後楽園ゆうえんち」が開場しました。
- 1959** 石打後楽園スキー場、
翌年10月石打後楽園カントリークラブ開場
以降、リゾート事業に進出 ～2007年事業譲渡
- 1962** 後楽園ボウリング会館
(現・後楽園ホールビル) 全館開場

- 1965** 熱海後楽園(現・熱海後楽園ホテル)開業
「熱海後楽園」をはじめとするレジャー施設を、
日本各地で展開していきました。
- 1969** 進商事(株)設立
- 1971** SHOP IN KORAKUEN(現・shop in)1号店
「新宿店」開店 ～1989年閉店
- 1973** 黄色いビル開場
- 1977** 黄色いビル別館開場
- 1980** (株)後楽園ファイナンス設立 ～2006年株式譲渡
- 1981** (株)後楽園スポーツ(現・(株)東京ドームスポーツ)設立
- 1985** (株)後楽園総合サービス
(現・(株)東京ドームファシリティーズ)設立
(株)大阪後楽園ホテル設立 ～2002年清算
- 1986** 大阪後楽園ホテル開業
以降、シティホテル事業に進出 ～2001年閉業
- 1987** (株)札幌後楽園ホテル設立
- 1988** 東京ドーム開場

- 1988** 札幌後楽園ホテル
(東京ドームホテル 札幌に2011年名称変更)開業
～2017年営業終了
- 1990** (株)東京ドームに社名変更
- 2000** 東京ドームシティに名称変更
東京ドームホテル開業
- 2003** LaQua開場
- 2004** 松戸公産(株)を株式交換により
完全子会社化
- 2008** MEETS PORT開場
- 2011** ASOBono!開場
- 2017** Gallery AaMo開場
- 2019** 「ATAMI BAY RESORT KORAKUEN」開業
- 2021** 三井不動産(株)の連結子会社化に伴い上場廃止
- 2022** 東京ドーム大規模リニューアル
- 2023** 東京ドームシティ大規模リニューアル



日本初の全天候型多目的スタジアム「東京ドーム」が誕生。雨天の心配がなくなったため、スポーツはもちろんのこと、さまざまなビッグイベントやコンサート会場としての利用が増えました。





会社概要

商号 株式会社東京ドーム
 TOKYO DOME CORPORATION
本社 〒112-8575 東京都文京区後楽1-3-61
電話 03-3811-2111 (代表)
設立 1936年12月25日
資本金 2,038百万円

グループ会社 (13社)

会社名

株式会社東京ドームホテル
 株式会社東京ドームファシリティーズ
 株式会社東京ドームスポーツ
 後楽園事業株式会社
 松戸公産株式会社
 株式会社東京ドーム・リゾートオペレーションズ
 進商事株式会社
 オリンピア興業株式会社
 東京ケーブルネットワーク株式会社
 株式会社東京ドームマーチャндаイジング
 株式会社アタミ・ロープウェイ
 株式会社東京ドームITソリューションズ
 株式会社東京ドームウィズ

ホームページのご案内

株式会社東京ドーム コーポレートサイト
 東京ドームグループの事業のご紹介やニュースリリース、
 CSR情報などを掲載しています。
<https://www.tokyo-dome.jp/>



東京ドームシティ公式サイト
 東京ドームシティの営業のご案内を掲載しています。
<https://www.tokyo-dome.co.jp/>



東京ドームシティ公式SNS
 東京ドームシティでは、イベントなどの最新情報を
 ソーシャルメディアアカウントよりお届けしています。
https://www.tokyo-dome.co.jp/socialmedia_accounts/



トップメッセージ



代表取締役会長 CEO

北原 義一

代表取締役社長 COO

長岡 勲

東京ドームグループは、1936年に「プロ野球専用のスタジアムをつくる」という夢を抱いて創業し、翌年「後楽園スタジアム」を開場しました。以後、私たちは東京・水道橋地区を皮切りに、多くのレジャー・エンターテインメントを創出してまいりました。

天候に左右されず快適に野球やコンサートを楽しむ。イベントの後も余韻に浸りながら仲間と語り合う。都心で気軽にアトラクションやスポーツにトライする。温泉やサウナでリフレッシュする。ホテルでゆっくり食事を楽しむ。これら様々な施設やサービスを追求し、お客様に心から楽しんでいただくことを私たちの使命としております。

“私たちは 人とひととのふれあいを通して お客様と「感動」を共有し 豊かな社会の実現に貢献します”

この経営理念のもと、お客様の感動のために、様々なチャレンジを行う一方、安全の確保を何よりも優先して考え行動することを心に刻み、安全理念の徹底への取り組みを継続して行っています。

2021年、東京ドームグループは、三井不動産グループの一員として新たな一歩を踏み出しました。三井不動産株式会社、株式会社読売新聞グループ本社、当社の3社が力を合わせ、それぞれの強みを発揮することで、よりスピーディに、より魅力ある街・空間づくりに挑戦できると考えております。

私たちは、この先もスポーツ・エンターテインメントを中心とした空間・時間創出の様々な可能性を追求し、新たな夢を追い続け、お客様と安全に感動を共有できる楽しい未来を目指してまいります。

